

三河湾で絶滅危惧種の二枚貝ムラサキガイ（シオサザナミ科） の生息を確認

北河紗衣*・西 浩孝**

The occurrence of an endangered bivalve, *Hiatula adamsii* (Psammobiidae)
from Mikawa Bay, Aichi Prefecture, central Japan

Sae Kitagawa* and Hiroataka Nishi**

はじめに

ムラサキガイ *Hiatula adamsii* は、シオサザナミ科に属する二枚貝で、内湾から湾口部にかけての砂泥干潟から潮下帯に生息している。国内では分布全域で生息場所が激減し、国内で健全な個体群が確認されているのは山口県、大分県、宮崎県など数か所しかなく (Honda et al., 2001; 三浦ほか, 2005 など)、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に (木村, 2014)、和田ほか (1996) では絶滅寸前、木村・山下 (2012) では絶滅危惧Ⅱ類とランクされている。愛知県においては近年蒲郡市三谷地先人工干潟において生貝が1個体確認されたのみであるとして「レッドデータブックあいち」で絶滅危惧ⅠA類に指定されていた (愛知県, 2009)。その後、蒲郡市と汐川干潟で生貝が確認されたことから (木村昭一, 私信)、「レッドリストあいち 2015」(第三次レッドリスト) では絶滅危惧ⅠB類に降下されている (愛知県環境部, 2015)。

なお、最近の日本の文献では本種の属名は *Soletellina* Blainville, 1824 を用いることが多かったが (松隈, 2000; Honda et al., 2001; 木村・山下, 2012 など)、Matsubara (2013) は *Soletellina* は *Hiatula* Modeer, 1793 の新参客観異名であるとしている。ここではこの

見解に従い *Hiatula* を用いる。また、種小名は *diphos* Linnaeus, 1771 が用いられる場合があったが、Honda et al. (2001) が指摘している通り誤同定である。

このたび、豊橋市前芝町地先の前芝海岸においてムラサキガイの生貝が確認されたので、報告する。

採集状況

前芝海岸は、豊川河口右岸に広がる砂泥質の前浜干潟である。豊川河口付近は愛知県漁業調整規則によってアサリの採捕が禁止されているが、幅 15 cm 以下の熊手や徒手による採捕は禁止されておらず、前芝海岸は潮干狩りの場として市民に親しまれている。

2015年3月8日、前芝海岸において著者の1人北河の祖母石原静江が熊手を用いて潮干狩りをしていたところ、見慣れない二枚貝1個体を発見した。発見した埋没深さは、通常アサリを採集する程度であった。何十年も前芝海岸で貝を採っていて初めて見た貝であったことから、北河に連絡をした。北河が「干潟ベントスしたじき 二枚貝」(木村昭一・木村妙子著, 2013, 仮説社)を用いて調べたところムラサキガイと判明した。北河の祖父によると、より小型の個体を2個体ほど確認したが、放流したとのことであった。

* 豊橋市立前芝小学校。Toyohashi Municipal Maeshiba Elementary School, 30 Nishitsutsumi, Maeshiba-cho, Toyohashi, Aichi 441-0152, Japan.

** 豊橋市自然史博物館。Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

Corresponding author: Hiroataka Nishi. E-mail: nishi.hiroataka@gmail.com

原稿受付 2016年1月26日。Manuscript received Jan. 26, 2016.

原稿受理 2016年3月2日。Manuscript accepted Mar. 2, 2016.

キーワード: ムラサキガイ, 絶滅危惧種, 干潟, 豊橋市, 愛知県.

Key words: *Hiatula adamsii*, endangered species, tidal flat, Toyohashi City, Aichi Prefecture.



第1図. 前芝海岸で採集されたムラサキガイの生貝.

なお、著者の1人西は2015年に前芝海岸において複数回調査を行ったが、本種を発見することはできなかったことから、生息密度は低く希少であると考えられる。

標 本

シオサザナミ科 Psammobiidae

ムラサキガイ *Hiatula adamsii* (Reeve, 1857)

標本：豊橋市前芝町地先 前芝海岸，2015年3月8日，石原静江採集，生貝1個体（殻の乾燥標本，豊橋市自然史博物館貝類資料TMNH-MO-27923），殻長88.8 mm，殻高43.5 mm（第1図）。

備考：左殻は採集時に破損。

謝 辞

石原静江氏には、ムラサキガイの情報をいただくとともに、豊橋市自然史博物館に標本を寄贈いただいた。三重大学大学院生物資源学研究科の木村昭一氏には愛知県におけるムラサキガイの生息状況についてご教示いただいた。みなと塾の加藤正敏氏には、前芝海岸の生物について情報をいただいた。豊橋市自然史博物館の松岡敬二館長および一田昌宏学芸員、学習教室「潮干狩りで学ぶ干潟の生物多様性」参加者には調査に協力していただいた。北河範枝氏には研究をサポートしていただいた。感謝申し上げます。

引用文献

愛知県，2009. レッドデータブック愛知2009－動物編－，愛知

県環境部自然環境課，愛知，651 p.

愛知県環境部，2015. 第三次レッドリスト レッドリストあいち2015. 愛知県環境部，愛知，48 p. http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/redlist/redlist_2015.pdf

Honda, J., Willan, R. C., Suzukida, K., Mizoguchi, K. and H. Fukuda, 2001. Discovery of healthy populations of the endangered bivalve *Soletellina adamsii* Reeve, 1857 (Tellinoidea: Psammobiidae) on the Suo-nada Sea (western Set Inland Sea) coast of Yamaguchi Prefecture, western Japan, with taxonomic remarks. *The Yuriyagai*, **8**: 23-32. (In English with Japanese translation.)

木村昭一，2014. ムラサキガイ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編），レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—6貝類，株式会社ぎょうせい，東京，p. 393.

木村昭一・山下博由，2012. ムラサキガイ. 日本ベントス学会（編），干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック，東海大学出版会，秦野，p. 134.

Matsubara, T. 2013. Validity of *Hiatula* Modeer, 1793 (Bivalvia: Psammobiidae). *Malacologia*, **56** (1/2): 309–313.

松隈明彦，2000. シオサザナミ科. 奥谷喬司（編著），日本近海産貝類図鑑，東海大学出版会，東京，984–989.

三浦知之・大園隆仁・村川知嘉子・矢野香織・森 和也・高木正博，2005. 宮崎港一ツ葉入り江に出現する底生生物と鳥類. 宮崎大学農学部研究報告，**51**: 17–33.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島 哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤 真・島村賢正・福田宏，1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. *WWF Japan Science Report*, **3**: 1–182.